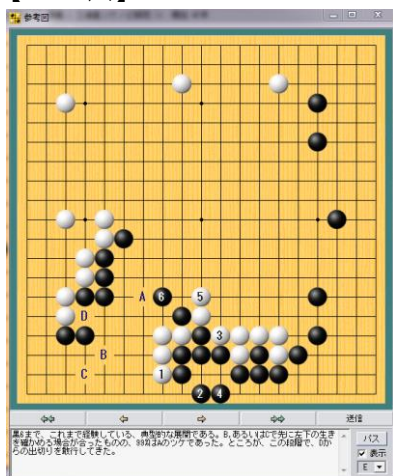


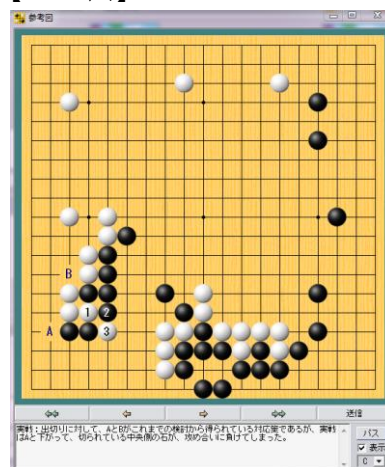
28. 三連星に入ってきた後のこと(4) (左下の手順を変えてきたときの留意点)

【68-1 図】



【68-1 図】黒 6 まで、これまで経験している、典型的な展開である。B あるいは C で先に左下の生きを確かめる場合はあったものの、99%は A のツケであった。ところが、この段階で D からの出切りを敢行してきた。

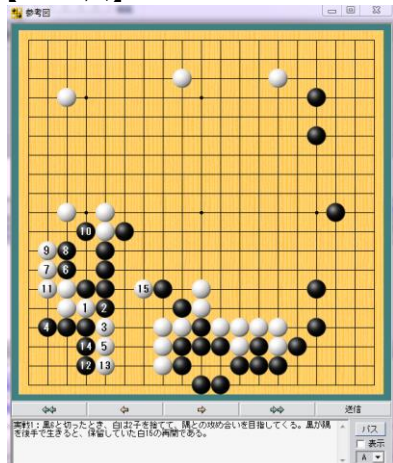
【68-2 図】



【68-2 図】出切りに対して、A と B がこれまでの検討から得られている対応策である

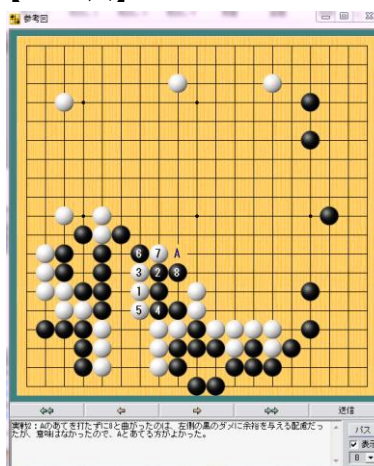
が、実戦は A と下がって、切られている中央側の石が、攻め合いに負けてしまった。

【68-3 図】



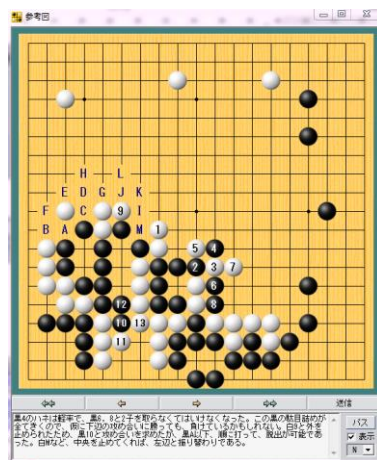
【68-3 図】実戦 1：黒 6 と切ったとき、白は 2 子を捨てて、隅との攻め合いを目指してくる。黒が隅を後手で生けると、保留していた白 15 の再開である。

【68-4 図】



【68-4 図】実戦 2：A のあてを打たずに 8 と曲がったのは、左側の黒のダメに余裕を与える配慮だったが、意味はなかったので、A とあてる方がよかった。

【68-5 図】



【68-5 図】 実戦 3：黒 4 のハネは軽率で、黒 6, 8 と 2 子を取らなくてはいけなくなった。この黒の駄目詰めが全てきくので、仮に下辺の攻め合いに勝っても、負けているかもしれない。白 9 と外を止められたため、黒 10 と攻め合いを求めたが、黒 A 以下、順に打って、脱出が可能であった。白 M など、中央を止めてくれば、左辺と振り替わりである。

【68-6 図】 実戦 4：下辺の白との攻め合いを目指したため、白 2 の放り込みからの駄目詰めを受けてしまった。以下、黒 9 とつめていっても、眼あり眼なしか、大中小中である。以下略（101 手。白中押し勝ち）

【68-7 図】

